

第2回 井原市立小・中学校のあり方検討委員会 会議録

日 時 令和7年12月26日（金）14：00～16：05

場 所 井原市役所5階 501・502会議室

出席者 委員：稲倉小学校区、野上小学校区を除く18名

事務局：8名

事務局（司会）：

定刻となりました。

ここで資料の確認をさせていただきます。本日はクリップ止めの9枚の資料があると思います。それが全てでございます。

開会に先立ちまして、検討委員の交代について事務局よりお知らせいたします。出部小学校区学校運営協議会代表の委員につきまして、本人都合により第2回以降の検討委員会に参加できないと申し出があったため、当該委員を解任とし、後任の委員の方へ改めて委嘱することとしましたので、ご承知おきください。委嘱状につきましては、勝手ながら机上での交付とさせていただきます。

1 開 会

事務局（司会）：

ただいまから第2回井原市立小・中学校のあり方検討委員会を開会いたします。

なお、本日の会議は、公開対象の会議となっており、傍聴人がおられることを申し添えます。

また、本日は、保護者アンケートの業務委託をしている株式会社サーベイリサーチセンターの高橋様に、オンラインで会議に参加していただいております。なお、機器の不具合により、こちらの音声は届きますが、高橋様の音声が届かないため、チャット

機能での回答をいただくよう対応しますので、ご了承ください。

はじめに、開会の挨拶を吉川委員長、よろしくお願いいたします。

委員長：

皆様お忙しいところお集まりくださいますありがとうございます。

早くも1年が終わるのかという感じでございますけれども、この検討委員会はまだ始まったばかりですので、ぜひ、様々なご意見もあろうかと思いますが、子供たちの学びを中心にして考える場としていきたいと思っておりますので、学びと育ちを尊重した意見交換をできればと思っております。

本日もどうぞよろしくお願いいたします。

2 審 議

(1) 保護者アンケートの内容について

事務局（司会）：

続きます、審議に入ります。

進行を吉川委員長、よろしくお願いいたします。

委員長：

それでは審議に入りたいと思います。

まず(1)保護者アンケートの内容について。

本日は、第1回の検討委員会で配付されたアンケートの内容について検討することになっております。はじめに振り返りの意味も含めて、アンケートの目的について事務局から説明をお願いいたします。

事務局：

保護者アンケートの目的についてご説明いたします。

本市はこれまで、小規模校においては少人数のメリットを生かした教育活動に取り組んでまいりました。しかし、少子化による児童生徒数の減少に伴い、そのメリットよりも課題が上回っていくことも予想されます。ついては、今後も児童生徒数の減少が

見込まれる中、さらに学校が小規模になることによる教育的な諸課題を踏まえ、子どもたちにとって、より望ましい教育環境を整備する必要があると考えており、本検討委員会で小中学校の適正規模・適正配置についてご協議いただく上での参考資料とするために実施するものです。

保護者アンケートの目的についての説明は以上です。

委員長:

ただいまの説明に対してご意見やご質問はありますでしょうか。(意見等なし)

それでは具体的に、アンケートの内容について審議していきたいと思います。

個別の質問内容へのご意見は後ほど1問ずつお伺いしますが、まずは全体的な質問の構成について、事務局から説明をお願いします。

事務局:

保護者アンケートの全体的な構成についてご説明いたします。

鑑文につきまして、3～4ページをご覧ください。

表面には、前文にこれまでの市の取り組みと、現状について説明した上で、本検討委員会での参考資料とするためにアンケートを実施するものと説明しております。下半分には回答方法や注意事項を記載しております。

裏面には参考資料として、児童生徒数が大きく減少していることや、小規模校で一般的に課題とされていること等を記載しております。

質問項目につきまして、5～6ページをご覧ください。質問番号の左横に、質問のジャンルを記載しております。

まず、問1～問3では属性について、お住いの学区や、現在の学級数・人数をお答えいただきます。これにより、学区や学校の規模ごとに以降の質問の回答内容が分析できます。

次に、問4、5では規模について、望ましいと思う学級数・人数をお答えいただきます。これにより、例えば規模の小さい学校に通わせている保護者や、比較的規模の大きい学校に通わせている保護者が、今の規模よりも大きい方がいいとお考えか、小さい方がいいとお考えか、あるいは今のままがいいとお考えかを把握できます。

次に、問6では望むことについて、今後どのような学校に通わせたいかをお答えいた

できます。選択肢につきましては、それぞれの学校規模のメリットを混ぜており、例えば「子どもの人間関係が広がり、多様な考えに触れることができる」という選択肢はある程度規模のある学校のメリットとして挙げており、「子どもの人間関係を深めることができる」という選択肢は小規模校のメリットとして挙げております。なお、「グローバル化」等、規模とは関係のない項目も選択肢に含めております。

次に、問7～9では再編についてのお考えをお答えいただきます。問7では、改めて教育委員会としての考えをお示しした上で、賛成か反対か、保護者のお考えを伺い、問8でその理由を伺う形にしております。また、問9では学校再編を検討するにあたり配慮してほしいことをお答えいただきます。

最後に、問10では通学として、仮に、通学距離が伸びたとしたときの児童生徒の通学方法についてお答えいただきます。

アンケートの質問数につきましては、回答のしやすさを考えると、10～15問程度がよろしいのではないかと考えております。

全体の構成についての説明は以上です。

委員長:

アンケートの構成についての説明に関して、ご質問やご意見はありますでしょうか。

委員:

このアンケート調査、もちろん市の意図するところが統合というところに向かっているのはわかるのですが、それを全面に出した案内文や内容で、あまりにも偏りすぎて、答えるに当たっては統合ということを前提に答えていくことになってしまうのは、いかがなものか。

事務局:

本検討委員会を立ち上げた前提といたしまして、このまま少子化がどんどん進んでいく中で、現在の小学校13校、中学校5校を維持していくことが非常に難しいであろうという前提のもと本検討委員会を立ち上げております。中には現状維持というご意見もあろうかと思いますが、あくまで現在の小・中学校18校を維持していくことが難しいという前提のもとでの会議であるをご理解いただければと考えております。

委員長:

再編・統合に向かうのが前提としたアンケートになるということですね。

他にご意見はございますでしょうか。

委員:

学校運営協議会でアンケートを皆さんに共有しました。例えば問6の中で、先ほど市はそれぞれの学校規模のメリットが挙げられていると言われましたが、選択肢の内容が色々ありすぎて、3つを選ぶのは難しいのではないかと思います。例えば項目別に、人間関係を求める人はどうしたらいい等、具体的に選択するものがあつた方がいいのではないかという意見がありました。

また、例えば問10に関して言えばこれも統合ありきで出されている部分ですが、答えたアンケートの集計結果は学校ごとに示してもらえるのでしょうか。いずれにしても今の段階では自分の地域のことしか考えられないので、答えが見えているかなという質問だと思ったのですが。

委員長:

個別の質問に関しては、この後で再度議論ができればと思いますので、その際にまた今のところに戻りたいと思います。

委員:

アンケート調査の前文で「標準規模を満たす学校は、小学校1校、中学校0校となっています」と書かれております。標準規模というのが資料の中で示されますか。

事務局:

文部科学省が提示しているものがありますので、お示しすることは可能です。

委員:

4ページの鑑文裏面の2で、「教育の課題と解決」とするなら、そのあとの「小規模校にはどのような課題があるのか」の次は最初から適正化と書くのではなくて、「解決策として学校規模の適正化」と書くのがよろしいのでは。

委員長:

ご意見ありがとうございます。この辺り事務局で検討していただきたいと思います。

委員:

私も協議会の皆さまにご意見を聞いたのですが、このアンケートで、小中両方のことを問うのは難しいのではないかと。小学校と中学校で適正な学級数や人数も違うのではないか。「きょうだいの下の子について答えなさい」となっているので、中学生の保護者の答える割合はとても少なくなるのでは。

委員長:

事務局から補足説明をお願いいたします。

事務局:

アンケートの回答に関しましては、小学生のお子様のみのご家庭には当然小学校の立場で考えていただきます。中学生と小学生のお子様がいるご家庭においては、それぞれ中学校としての回答、小学校としての回答ということになるので、回答が少なくなるということはないものと考えております。

委員長:

他にございますでしょうか。

委員:

18日に学校運営協議会を開いてもらって相談しました。保護者アンケートを見た方が、地域の方に対するアンケートや意識調査はないのかと言われてまして。参考資料なので保護者だけでいいのだろうけれども、それでは地域住民の気持ちは取り入れられないのではないかという意見がありました。小学校中学校ってというのは、地域の重要な施設であって、地域活動の拠点になっている部分もある。ぜひ地域の人に対してもその気持ちを聞いてほしいという意見がありました。

委員:

今のご意見に関連して。学校運営協議会の人にこのアンケートをお示しして、ご意見を聞いたのですが、保護者だけではなくて広く市民へのアンケートもお願いしたいというご意見がありました。

委員長:

同じようなご意見があったということですね。

委員:

同じことなのですが、3日の第1回検討委員会の後、6日に学校運営協議会がありま

した。今言われたように保護者だけのアンケートで、答申を出すということで。

その答申後にまた検討があり、その段階で地域の方や団体の意見を聞いて、実際に訴えかけていくのか、それはわかりませんが、意見をいただいた中では地域の意見を聞くべきだとしきりに言われていますので、保護者だけにアンケートで聞いてそれで済むのかなというような気がいたします。

委員長:

他にもそういうご意見が出た地域はありましたか。

委員:

同じように、地域のアンケートはどうしてないのだろうか。地域の声は聞かれないのだろうかというふうに言われました。

委員長:

このあたりについて、事務局としては整理されているのでしょうか。

事務局:

保護者へのアンケートというのは、あくまで保護者の立場での意向を調査するものがあります。地域の意見は、というご要望ですが、地域の意見に関しましては、今しがた、様々な地域の意見を言っていたと思っています。

あくまで保護者、児童生徒のアンケートというのは、今後の小中学校のあり方を検討していく中での参考資料として位置づけております。地域の意見に関しましては、保護者や児童生徒へのアンケート結果を踏まえた上で、地域の方の意見を聞かせていただければと思っております。1回目でもご説明しましたが、学校運営協議会の代表の方に来ていただいている趣旨の1つとして、学校運営協議会には地域の方が含まれていますので、学校運営協議会で出た意見をこの場で発表していただくことで地域の声も聞きながら、今後の井原市の小・中学校のあり方について方向性を決めていくものと考えております。

委員:

今事務局が言われたように学校運営協議会の委員さんがそれぞれ出ておられますが、それが地域の意見だと私は捉えていません。

あくまで学校運営のための委員であって、その地域の意見ではないと思っています。

皆さんどう思われますか。

委員:

同じです。もちろん学校運営協議会の代表として来ています。地域の意見まではなかなか私自身では聞けませんので、あくまでも運営委員としての意見ではないでしょうか。

委員:

地域の意見というのを聞くのは難しいです。私は地域の他の役を兼ねているので、その場でいくらか聞くことができますが、そういう立場になれば地域の意見を拾うことは難しいかなと思います。

委員:

西江原も学校運営協議会の会員はすごく限られていますし、それが地域の意見を反映できるかといったら難しいと思っております。地域の意見は別で聞くのがいいのではないかなと思います。

まず保護者と子どもたちの意見を聞き、その結果を踏まえた構想を地域に出して、このように考えているがどうですか、という形がいいのかなと思います。

委員:

私の地区でも学校運営協議会が今月ありましたが、まずは子どもを真ん中に置いてという説明が最初にあったので、私は先に保護者と子ども向けのアンケートをとってその結果を地域の方にお見せした方が、一緒にアンケートを取ると分からなくなるので、子どもを真ん中に置くのであれば先に保護者と子どもの意見を聞いた方がいいと思います。

委員:

まず、子どもあるいは保護者へのアンケートをとって、その後パブリックコメントを実施して、それで地域の意見収集をよしとするか。

アンケートであれば、例えば無作為サンプル抽出して、1,000人や3,000人にアンケートを取るのか。

考え方としては2通りだと思います。

委員長:

ありがとうございます。事務局の方で持ち帰っていただいてもよろしいでしょうか。

事務局:

検討させていただきます。

委員長:

よろしくをお願いします。

本日の会議では保護者アンケートに関する検討ということになりますので、こちらの方にまずは集中させていただきたいと思います。

全体構成について他にご意見はございますか。(意見なし)

それでは順を追って鑑文と各問についてご意見をいただければと思っております。

ではまず、鑑文についてご意見や修正案がございましたらお願いいたします。

委員:

鑑文ですけれども、1段落目と2段落目で、書いてある内容はその通りだなと思うのですが、内容が難しいのもっと分かりやすく簡潔にできないかなと。前回の資料でいただいた諮問書がございましたが、諮問書の本文、「本市はこれまで・・・」という、その辺りを持ってくるのはいかがでしょう。

委員長:

諮問書を読み上げますと、「本市はこれまで小規模校においては少人数のメリットを生かした教育活動に取り組んできた。しかし少子化による児童生徒数の減少に伴い、そのメリットよりも課題が上回っていくことも予想される。」

ここを指していますでしょうか。

委員:

そのまま持つのは難しいかもしれませんが、アレンジしたものを持ってくれば分かりやすくなるのかなと思います。

委員長:

ありがとうございます。このあたりは事務局の方で調整可能でしょうか。

事務局:

調整させていただきます。

委員長:

他のご意見も聞いた上で、その諮問文を入れるということをご検討ください。

他にご意見ありますでしょうか。では私からよろしいでしょうか。

裏面ですが、市内の児童生徒数が大きく減少しているということで、具体的な数字を入れているのですが、これが小学校と中学校を合算した数字なのは分かるのですが、グラフの中にある数字を探しても小中学校で平成27年から令和7年までの10年間で、923人が減ったというのは計算しないと出てこないのも、もう少し分かりやすくならないものかと。

もう1つ、2つ目のところですが、小規模校の課題と解決策としての適正化の良さっていうのは、再編ありきになっているというご意見、私もそうだと思うのですが、小規模校にはメリットもありデメリットもあります。再編にもメリットデメリットがあるというような、もう少し公正な示し方にならないかなというふうに思っております。先ほど委員がおっしゃった、小規模校にはこういう課題があって課題を解決するための適正化というのも一つの方法だと思いますので、併せてご検討いただければと思います。

自分はあまり発言しないようにしようと思っているのですが、申し訳ございません。

その他にご意見ございましたらお願いします。

委員:

表面の「ご回答にあたって」の注意事項の一つに、二次元コードは1つしかないけれど、例として「小学生・中学生のお子様がいる場合、それぞれの2次元コードから計2回お答えください」とあります。このあたりを2回も3回も読んだのです。紙は1枚しかないのにどうということなのかなと。

小学生中学生のお子様がいる場合、小中それぞれの2次元コードから、等の言葉があったらわかりやすいかなと。

委員長:

事務局に確認したいのですが、入口は1つで、その中で分岐しているのですか。それとも入口を別々に設けるということでしょうか。

事務局:

入口は1つで、その中から小学生の質問、中学生の質問に分岐していきますので、小学生と中学生に回答する場合は、1回目読み込んで、小学生の立場で回答していただく。2回目もう1回読み込んで今度は中学生の立場でご回答いただくという手順になります。

委員長:

先ほど委員がおっしゃったこと、私も最初戸惑いまして、注意事項の1つ目の括弧の中で「それぞれの2次元コードから」とあるために、他の2次元コードを探してしまうのではないかと。

委員:

それでしたら小学生と中学生のアンケートを別々にして、小学校用・中学校用にすれば、小学生は小学校用から回答できるのでは。

委員長:

というふうに取り取れてしまったのです。

委員:

そうした方が答える方も簡単なのでは。小学校なのに中学校のアンケートに答えてしまったという人もいるかもしれないので、2次元コードは分ければどうか。

委員長:

それぞれを削除してしまえば一つの入口から入ることができて、その中で小学校の対象者が中学校と答えるかもしれない。

委員:

それなら小学校しかいないのにそれを読み込んでいってやはり中学校も答える可能性もなくはない。

委員長:

読み込んだときに分岐をするので、小学生は小学生だけのアンケートが示されるということですね。

事務局:

例えば最初に小学生や中学生だと入力するというところがあり、そこで選択することによって自動的に小学生の問題に進むようになっています。

確かにこれは分かりにくいので、例えば同じところに行くのだけれども、この2次元コードを小学生用と中学生用それぞれ作ることによって、間違いもなくなるのかなと。

ただ、そのあたりが可能かどうか、委託しているサーベイリサーチセンターさんの方に確認をする必要があるのではないかなと考えております。

委員:

今の議論で設問がそのように分かれていくのであれば、ここに書いてある例えば属性問2、アスタリスクで小中学生の保護者のみ回答と書いてあるが、これは本番ではなく、我々に説明するための文言ですね。

事務局:

はい。実際の見え方と、今お示ししている資料の見え方は違います。

委員:

保護者の目線で事務局の方にお問い合わせがあるのですが、これは紙で配られて保護者に答えてくださいということですよ。

中学生になったら、子どもが紙を出さないことが多いという話をよく聞きます。わざわざ親が今日何も紙もらってないのとか聞かないと、知らない保護者がたくさん出てくる。そういうことがあるので今うちの学校では例えば部活動とか保護者も参加するものに関しては紙とスクリーンで配信されます。これもダブル配信ができないのかなと。

事務局:

可能ですので対応させていただきます。

委員:

アンケートだから個人の識別はしないということですよ。ホームページに載せて周知するのはどうですか。

事務局:

確実に保護者のみに回答してもらうためにはセキュリティの問題もあると思いますので。ホームページに載せてしまうと、一般の方が回答してしまうこともあり得ます。

委員長:

回答者がある程度担保された環境で実施するということですね。電子的にも配信をしていただきたいと思います。

委員:

先ほど質問したところですけど、結局、2次元コードは1つですよ。これだったら2次元コードが複数あるように思える。

それぞれの、という文言について、「2次元コードから小中それぞれ計2回お答えください」に変えたらどうでしょう。

事務局:

そのようにさせていただきます。

委員:

先ほどのスクリーンはスマホで見られるわけですよ。今スマホに来ているアンケートはそのまますぐ入れるようになっていきますので、そのようにしていただければと思います。

事務局:

アドレスをタップしてサイトに飛ぶようになります。

委員:

回答期間が長いと、回答したかどうかを忘れてしまって、もう1回やってしまう方もいるかもしれません。回答は二重にできるものなのか、それとも再度の回答はできなくなるものなのか。

委員長:

匿名でのアンケートだと、それを制御する方法はないような気がするのですが。

事務局:

委員長がおっしゃったように複数回回答できてしまいますので、鑑文に「くれぐれも

回答は小中それぞれ1回にしてください」という注意書きを追記したいと考えております。

委員:

今日技術の方がおられますが、タイムアウトの時間はどれぐらいなのか。

(事務局から委託業者に確認)

委員長:

回答を待っている間に、他にご質問などがあればお願いいたします。

委員:

裏面の下から2つ目の丸の中の真ん中ですが、「切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい」とあります。この文章での切磋琢磨する環境というのは大規模校のことですね。

大勢いる環境の中で意欲や成長が引き出されにくいというような意味合いになると思うのですが、これだったら「切磋琢磨する環境の中で培われる意欲や成長が小規模校では引き出されにくい」という意味の文章になっている。だから、「切磋琢磨する環境の中で培われる」という言葉にすればどうかと思いました。

委員長:

では一旦鑑文はここまでにさせていただいて、個別の質問に移ろうと思います。

5ページ、「小中学校のあり方に関するアンケート（保護者向け）」というところで、問1から問10までございますので、順番にご意見をいただければと思います。

まず問1についてはいかがでしょうか。特になさそうであれば次にいきたいと思いません。(意見なし)

問2、学年の学級数はいくつですか、についてはいかがでしょうか。

委員:

現在4学級以上の学校があるのですか。

事務局:

中学校で1校あります。

委員長:

では問3、学級の人数は何人ですか。いかがでしょうか。

委員:

31人以上のところでもう決められている人数がありますよね。

事務局:

小学校では35人、中学校に関して今年度は全学年で40人、来年度から中学校1年生が35人、中2・3が40人、再来年度は中学校2年生まで35人。3年後には、中学校1～3年生が35人学級になります。

委員:

地域の方から、決められた人数があるのではないのですかという質問がありましたのでお聞きしました。

30人と31人というふうにクラスによってまたがることはないのですか。例えばうちの子は30人クラスだけど、同じ学校でも学級数がわかることは。

事務局:

それはあります。

委員長:

この質問は何のためにあるのでしょうか。

事務局:

現在の人数、集団規模の把握のためです。

委員長:

それは問1で学区を聞いたら分かる質問ではないのですか。

委員:

そこまでは分かりません。学年によって2クラスだったり1クラスだったり、全部一緒ではないので。

委員長:

ありがとうございます。では問3はいかがでしょうか。

委員:

そもそもクラス数とか実人数というのは教育委員会ではわからない、だから今聞いているこのアンケートとこのデータを紐付ける必要性があるかどうか。どういう目的をもって紐づけられているのか。

全員から返ってくるかどうかともわからない。質問の意図が、例えば方向性だけであれば紐付ける必要があると思う。少人数学級でこのような意見が出ているということで分析の中に含めれば目的に合う。

委員長:

わかりました。その他意見ありますでしょうか。(その他意見なし)

それでは問4、1学年あたりの学級数はどの程度が望ましいと思いますか。この質問についてご意見はございますか。

委員:

青野は複式学級なので、保護者の中にはどの程度が望ましいかをイメージするのが難しい人もいるかもしれません。おそらくみんなが想像できるわけではなくて、複式学級なので、2学級になったらどうなのか、3学級になったらどうなのか、というふうに考えられる方もいらっしゃるし、もちろん個人が比較的大きな学校に行かれて卒業されていたら想像ができると思うのですが、ご自身も1学級しかないようなところにおられた方だと難しいのでは。

「わからない」とか「想像できない」という項目が追加できるか、それとも飛ばせるものなのかという点を伺いたいです。

事務局:

できるだけ多くのご意見をいただきたいので、飛ばすことができるとデータに偏りが出してしまう可能性がありますので、全ての質問に回答していただきたいと考えております。ただ、複式しか経験していない保護者の方が答えられないかもしれないという点も理解いたしますので、検討させていただきます。

委員長:

「わからない」という選択肢が入るかもしれないということですね。

他に問4に関してございますか？（その他意見なし）

それでは問5、1学級あたりの人数はどの程度が望ましいと思いますか。これも先ほどのご意見のように「わからない」という選択肢を入れた方がよろしいですか。

委員：

おそらく、たくさんの人数というのが想像できないのではないかと。保護者も少ない人数ばかりを見ているので。全校で10～20人くらいまでは想像できるかもしれませんが、それ以上になると皆さんがどこまで想像できるかは分かりかねます。

委員長：

では事務局の方で問4、問5も同じようにご検討ください。

他に問5に関してご意見ありますでしょうか？（その他意見なし）

それでは続いて問6、どのような学校にお子さんを通わせたいですか、3つまで選択というところになります。

委員：

問6とあわせて、後の質問にも関係するのですが、問8から問9まで選択数を限定されているのですが、多くの意見を集めるためには回答数に制限をかける必要はないのではないかと。

委員長：

選択できる数の制限をなくすというご意見ですね。

委員：

問6について、先ほど申しましたが、何にスポットが当たっているのか分からないので、例えば人間関係を重視するのであれば、それについて聞くのはどうでしょう。

学習支援において希望することとか、項目を別に分けて選べればよいのではないかとという意見がありました。

委員：

「PTA活動等において、保護者1人あたりの負担が少ない」という選択肢があるのですが、これは受け取りようによっては失礼に感じる保護者がいるかもしれないというご意見がありました。

委員:

同じ選択肢なのですが、子ども中心なのに大人の都合を聞いているので、必要なのかという意見がありました。

委員:

私のところも、ここは疑問だなと思いました。

委員長:

では PTA 活動の負担についての選択肢はどちらかというとない方がよろしいですか。

委員:

保護者である私としては入れて欲しいと思います。

委員:

保護者のご意見を聞くものですので。子ども向けじゃなくて保護者向けなので。

保護者にとって PTA 活動が大変という意味での選択肢なので、私は入れた方がいいと思います。もちろん子どもには聞く必要ありませんが、大人の保護者には聞きたい。岡山県 PTA 連合も全国都道府県で唯一なくなっていますし、あった方がいいのでは。

委員:

先ほど委員さんも言われましたが、項目で分けると全てを選択してしまうと思います。学力も必要だ、人間関係も必要だという思いで。

保護者として学校に特に何を求めるのかというのであれば、色々なものの中から選ぶ方が、本当の意見が出るのではないかと思います。いかがでしょうか。

委員長:

先ほど選ぶ数を 3 つまでにしない方がいいのではないかと意見もありましたが。

委員:

それも含めて、数の制限はなく、こういうものを求めていますというのがいいのかないと。

委員長:

数の制限を外して網羅的な構造は残しておくということですね。

委員:

今学力の問題、学習形態の問題が出ているのですが、学力の向上であるとか、基礎学力をきちんとつけてくれればいいのかとか。それから、いじめのない環境や穏やかな人間関係。今一番の課題なのかなという感じはしているのですが、この中で言うと、いじめがないということは子供の人間関係を深めるというところなのかなと思うが、いじめとは少し違う。

現状の課題を認識した上で、どういう学校にしていくか。であれば、少し焦点化してもいいのかなと思うのですが、それがいいかはわからない。皆様のご意見を聞きたい。

委員長:

できるだけ多くのご意見をここで出しておきたいので、ぜひお寄せいただきたいと思います。

委員:

選択肢で、故郷を愛し誇りを持てるというところの関連ですけども、「地域との交流が充実している」というのをに入れてほしいという意見がありました。

委員:

自由記述はどの程度余白があるのか。例えば問1ではある程度書くスペースがあると思うのですが。

委員長:

スペースの話だと思うのですが、オンラインで回答がなされるので、書くスペースはある程度担保されているはずです。

委員:

色々書くとしたら、タイムアウトが気になるという話ですよ。

委員:

3つまで選択を外してもいいのではないかという意見がありますが、たくさん選べると混乱しないだろうか。統計は出しにくいかもしれない。

委員長:

統計的には各項目間の差がつかなくなるという懸念はあります。

委員:

10個あるから3分の1という割合で聞いているのかなど。3割で3つかなと思うのですが。

委員長:

人間の気持ちとしては、その数の中で絞っていくことにはなりますので、回答者の優先順位や重要度で出すわけですね。

ただ、確かに制限されると、選びきれない可能性もある。優先度が4番目と3番目では何が違うのかというような問題が出てきますので、その数を広げるというのも1つの方法ではありますが、統計を作るときには大体3つまでというのが多いかなと思います。

一旦整理すると、問6に関しては追加したらどうかというご意見が3項目あったかと思えます。

基礎学力を身につけてくれるということ。

いじめのない環境であるということ。

地域との交流が充実しているということ。

この3点について追加のご要望があったというふうに理解をしております。

また、「PTA活動において保護者1人あたりの負担が少ない」という選択肢に関してはどちらのご意見もありましたので、もし3つまで選ぶのであれば残しておいてもいいのかなど私は思っておりますがいかがでしょうか。(異議なし)

それでは事務局の方で検討いただきたいと思えます。

次に問7、先ほど事務局から説明ありましたように市の方針を示した上で、4択で意見を聞くということになっております。

これに関してご意見ご質問はありますでしょうか。

委員:

完全に誘導されています。市の方針を示すことが設問に必要なのか理解できません。それと、再編した方がいいのか悪いのか答えられないというPTA会長の意見がありま

した。どちらもいいこと、悪いことがあり、今の段階で答えられないので、「答えることができない」という項目をぜひ増やしてほしいということでした。

わからないというか、何とも言えないというか、そのような感じです。

委員長:

他にございますか？（他に意見なし）

次に問8は2つに分かれておりまして、問7で再編を進めるべき、またはどちらかと言えば再編した方がよいと回答すると問8-1に進みます。そして、どちらかと言えば再編しない方がよい、または再編を進めるべきではないと回答すると、問8-2に進みます。この2点を併せてご確認いただければと思います。

委員:

問8-1ですが、一つ目の「多様な考えに触れ、学び合い、切磋琢磨し合える環境になる」という部分なのですが、先ほどの鑑文の裏面の一番下に「多様な考えや価値観に触れ、学び合い、切磋琢磨し合える環境になる」と、同じような文章があるので、鑑文に揃えてもいいのではないかと思います。

委員長:

そうしますと4つ目の「運動会などの学校行事や合唱など、集団での活動の質が向上する」も、鑑文では「運動会や合唱などの学校行事等、集団での活動の幅が広がる」となっていて、少し表現が異なりますね。

この辺りは鑑文と揃えた方がいいのではないかと思いますという意見ですね。

委員:

その2つは鑑文に揃えてもいいのですが、鑑文の2つ目に「新たな人間関係を構築する力を身に付けることができる」とありますよね。これについては選択肢2つ目と3つ目の内容が、鑑文の2つ目に当たるのかなと思うのですが、ここはそのままでもいいと思いました。

委員長:

このあたりの表記の統一は、鑑文の方も検討をお願いしておりますので、そこで合わせるという形にしていきたいと思います。

その他、ご意見いかがでしょうか。

委員:

問 8-1 の下から 3 つ目の「教職員数の確保により、教員 1 人あたりの負担が軽減される」は必要なのでしょうか。

委員長:

どうでしょうか。保護者が先生の立場を考えて回答するということについて。

委員:

軽減されるというよりも、このような表現をすることによって、「先生の負担が軽減されることで、もっと子どもたちに触れ合う機会や時間等が確保される」という意味合いであれば、これはあってもよいのかなと思います。言葉を付け足していただけるといいかなと。

委員長:

文言がちょっと変わりますね。

「教員数の確保により、教員が子供と接するような時間が増える。」

委員:

それでいくと、少人数の学校の方が、元々子どもと接する時間はたくさんあるわけで、それは校務分掌の割合とも言えますけれども、元々人数が少ないのですからその方が目は行き届くわけで。ここに持ってくるのはどうも違和感があります。

人数が多いと切磋琢磨し合える環境になるというのが鑑文の中にもありましたが、少人数でも、2 人であっても切磋琢磨できると思うのですが、その言葉を入れる必要があるのかなと、少し引っかかります。

委員長:

この項目については、書き換えたとしてもここにあるのは違和感があるということですね。それではこの項目は削除で。

委員:

確かに、複式の保護者のイメージと大きいクラスの保護者のイメージは違うかもしれません。

委員長:

それから先ほど切磋琢磨という表現に関しては、「大きな集団の中で切磋琢磨する環境」と言葉を補いましょうか。

他にいかがでしょうか。

委員:

問 8-2 の下から 2 つ目の「自分の母校がなくなってしまう」ですが、自分というのは保護者のことですか。

母校がなくなるのかなと思って。なくなるかもしれませんが、聞く必要がないのではないか。

委員:

ここも 2 つ選択だが、3 つくらいの方がいいような気がします。2 つより。

委員長:

統計を作る上では、2 つ選択でも 3 つ選択でも影響は先ほど申し上げた通りなのですが、1 つのアンケートの中で大きく選択肢数が変わらない中で、2 つや 3 つが混在するのは違和感があります。

選択肢数がさほど変わらない。10 ぐらいある。であれば 3 でもよいのではないかと思います。

事務局:

事務局が作った時点では、10 までが 2 つ選択、11 以上になると、3 つ選択というイメージで作って、10 と 11 で線を引いているところです。

委員:

それは統計的に何か意味合いがあるのですか。

事務局

原案では選択肢数に若干差異がありまして、少ない選択肢の 8 とか 9 の中での 3 つ選択と、11 の中での 3 つ選択では偏りが出るのであろうということで、10 と 11 のところに線を引いて、10 以下は 2 つ選択、11 以上は 3 つ選択ということで作成しました。ただ、全部 3 つ選択に揃えることは可能です。

委員長:

全て3つ選択に揃えるということでもよろしいでしょうか。(異議なし)

では続いて、問9、学校再編を検討するにあたり、特にどのような点に配慮が必要だと思いますか。3つまで選択、いかがでしょうか。

委員:

問9の上から4つ目の「通学(時間・距離・方法)と安全確保に関する対応」というところで、現状は小学校であれば、例えば高屋と出部、下出部の境にあるコスモスというお店の辺りの小学生は、大江小学校には10分ぐらいで行ける。けれども歩いて遠くの出部小学校に通っている。例えば笹賀あたりの小学生は、高屋小学校には10～15分ぐらいで行けるのに、出部小学校まで歩いて通っている。

それともう一つ、中学校で考えた場合、その辺りの子どもは井原中学校まで自転車で20分ぐらいかけて通っていますが、高屋中学校だと歩いて10分ほどで通える。

子どもファーストで考えると、地域・学区にとらわれずに、例えば下出部の子であれば学校を選べるという措置を講じた場合、再編をする前の基礎データのバランスが狂ってくると思うのです。

出部は東西に長いので、出部小学校へかなり人数が集中していますけれども、東の端とか西の端あたりの子どもが最寄りの通いやすい学校へ通うような措置を講じた場合は、基礎データも変わり、再編を考える前提としての数字がかなり変わってくるのではないかと考えております。

以前地域の方からそういう話を聞きまして、ある市議会議員さんに話をしたときには、市に意見箱があるから文書で出してくださいと言われたので投函しましたが、そのような予定はありませんという返事が返ってきました。

予定はありませんというが、それするのが市の仕事ではないのですかと思いましたがし地域の方の反発もあったのですけれども、その辺のことは可能でしょうか。市の行政の方のご意見をお聞きできればと思うのですが。

事務局:

学区の再編が可能かというお尋ねだと思うのですが、結論から言えば可能です。ただ現時点で具体的な話には至っておりませんので、まず、小中学校のあり方を考えていく上で、この地区に関しては学区の再編が必要であろうということであれば取り組んでいくことになろうかと思えます。現時点で具体的にどうする、という段階ではない

というところをご理解いただければありがたいと思います。

委員:

再編について地域の方の要望をきっちり吸収する、意見を出していただく、そういう機会というのも持っていただくことができますでしょうか。

事務局:

再編に関してはまだ検討にも入っておりませんので、今お答えすることは難しいと思うのですが、先ほど委員がおっしゃったように、まずは子どもたちが理不尽にならないような形を考える必要があるかと思っておりますので、その過程の中で必要に応じて地域の方々のご意見をいただくということがあるかもしれませんが、現時点でその回答をするのは難しいと考えます。

委員:

今の学区については、ずいぶん昔から変わらず残っているのですが、今まちの色々なところに新しいお家ができて、まちの形がかなり変わってきていると思う。そういう現状を踏まえて、学区の検討も考えていただければありがたいと思っております。

副委員長:

今まさに議論されているのは、この問9の「学校区の地域バランス」に当たるのではないのでしょうか。だとすれば、地域バランスという表現で今のような意見を吸い上げることができるのか、それとも十分に理解できずに選択しないという可能性もあると思っておりますが、もしそうであればこの表現を分かりやすくした方がいいのかなと思っております。

委員長:

この言葉はどういう内容を意図されておりますでしょうか。

事務局:

先ほど委員がおっしゃられたような内容で、学区とは違う学校の方が近いのに、ということは考えられますので、そういうニュアンスの選択肢になっております。こっちの方が分かりやすいというようなご意見があれば修正させていただきたいと思っております。

委員:

「通学区域の弾力的運用」とかそういう言葉ではいかがでしょうか。この言葉なら、今のお話がうまくまとまると思うのですが。

委員長:

ご提案ありがとうございます。

これについてもちょっと事務局の方で預からせていただきたいなと思います。表現の再検討をお願いします。

その他のご意見ありますでしょうか。

委員:

その項目の中で下から3つ目、「地域の拠点機能の継承（防災、文化・スポーツ活動、地域交流など）」の防災について、ニュアンス的に私の考えとは違って、例えば学校再編したときの、その学校の立地条件という意味で配慮が必要という、最近の異常気象を考えた上での選択肢もあっていいと思います。

それともう一つ、「放課後児童クラブの利用者への配慮」という項目も入れていいかなと。今放課後児童クラブを利用されている保護者の方で、統合した後その辺がどうなるのかなと思われている方もおられるのでは。

委員長:

ありがとうございます。

防災のところは、避難所とかハザードマップ的な立地条件のことでしょうか。

委員:

例えば、校舎が崖崩れしやすいところにあり、防災上危険だからもっと安全な立地の学校がいいのではないかと、そういった意味合いの防災上ということでした。

委員:

私のイメージでは、例えば県主が木之子と一緒になるとしたときに、県主には防災の組織もあり、文化的には運動会や文化祭もあるのだけれど、学校が統合したら、文化的な行事や防災的な組織も木之子に統合されるというのではなく、拠点機能を継承し、それぞれ引き続き地元の地域で運用する、という意味かなと解釈しました。

委員:

私が思うのはただ地理的な問題で、地理的にそこに学校があることは防災上どうなのかなという、ただそれだけでした。

委員:

ここの意味合いを事務局にお聞きしたいのですが。

事務局:

例えば A 小学校が B 小学校に統合された場合、その A 小学校の施設もしくは拠点機能の継承ということなので、今佐藤委員さんがおっしゃったような内容の意味合いでこの選択肢を設けております。

委員:

参考までに。入れるべきかどうかわからないのですが、今まで地区の関係で、各 13 地区のまちづくり計画をつくる。令和 9 年までそういったものが進められていて、これは総合計画の策定にも大きく関わる計画だと思うのですが、幼稚園や小・中学校の統廃合をやる場合、コミュニティ形成に大きく影響が出てくるのではないかなと。

だから一番言いたいのは、「教育委員会と市長部局が連携をとって、井原市の将来を考える」というような項目が何かに入っていたらいいなど。現に令和 9 年までに作らなきゃいけないということですからね。それを作ったら今度は、再編した場合、まちづくり計画はどうなるのだということもありますから、何か適当な文言があれば入れていただきたい。

委員長:

具体的に何かアイデアはありますか。

委員:

現実の話なので。

委員長:

どのような言葉だったらいいでしょう。まちづくり計画というのはその地域の拠点機能に関係してくると思いますよね。この表現で収まっていればいいのですが、あるいは足りていない例があれば足すとか。

委員:

括弧書きでまちづくり計画のことを加えても、保護者の人はたぶんわからない。

委員:

「地域交流」が一番わかりやすいかなと。文化スポーツ活動や地域交流が今まちづくりでされている活動ですよ。私も PTA 会長になって初めてこういうところが連携していると知ったので。されたことない方は、どういう方が主体なのかもご存知ない方がほとんどかと思います。初めて PTA の本部になって知ることがあるので、たぶん保護者の人にまちづくりと書かれても理解しづらいかと思う。「地域交流」が一番わかりやすい言葉かなと思います。

委員:

「まちづくりなどの地域交流」と入れていただければ、わかる人はわかる。ほとんどの人がまだまちづくりそのものの組織を認知されていないと思うのですけど。

一番言いたいのは教育委員会と市長部局が連携してもらい、まちづくり計画の策定や財政支援をやっていただきたいなど。ここで言うべきことではないのですが。

委員長:

きっと持ち帰っていただけると思います。

問 9 に関して他にございますでしょうか。

委員:

「保護者・地域住民への十分な説明」とありますが、説明をしてくださることはとても大事ですが、説明だけで終わらないで欲しい。地域の衰退を避けるためにも、地域への人的、財政的な支援を強く要望すると、しっかりお願いしてほしいという意見をいただいています。説明をしました、あとは自分でしなさいでは困りますということです。

委員長:

文言としては、十分な説明だけでは足りず、書き加えた方がいいと。

委員:

「地域への人的・財政的な支援を行う」など。そこまで書けるかどうかは検討してく

ださい。

委員長:

ただ、ここには説明とだけ入れておいても、どれほど選ばれるかはわからないというのがあります。実際にはどうにかして地域の方のご意見を抽出するような手立てを考えるべきというご意見もありましたので。

委員:

それで「地域への支援」を入れて欲しい。

委員長:

支援まで入れるかどうかですね。事務局いかがでしょうか。

事務局:

あくまでも小・中学校のあり方に関する保護者へのアンケートなので、支援という文言はすぐわないと考えています。

委員:

「協議と説明」くらいにしておけばいい。できれば協議があって、説明があった方がいいと思います。一方的なので、説明は。

委員長:

入れるかどうかということも含めて事務局で検討いただきたいと思います。

委員:

「一人の子どもが複数回の再編を経験しないようにする」とありますが、一度再編して、その後またすぐに再編しない、ということをお願いしたいのですね。その意味がわかるのでしょうかという意見がありました。

もう一つ、少人数の学校を希望する場合は、こういう選択肢もあるかなというので、居場所作りへの配慮。それは問々になりますかね。放課後児童クラブは、放課後の居場所ですよ。放課後だけではなくて、子どもの居場所というか、普通に学校に行けない。それが一番上の「子どもにとっての環境変化への対応」の中に含まれるのではないのでしょうかということですかね。

委員長:

最後問 10、学校再編により、仮に、ご自身のお子様の通学距離が伸びたとすると、どのような通学方法が適当だと思いますか。

これについてご意見を願います。

委員:

自分の地域のことしか考えられないのですが、それぞれの学校ごとのアンケートの結果は報告されるのでしょうか。全体で出るのでしょうか。

事務局:

あくまで井原市全体の希望調査ということですので、そこまで細分化することは現状では考えておりません。

委員:

問 10 は必要ですか、という意見があつて。通学方法を確保する取り組みは、例えば送っていきたい人は送っていけばいい。スクールバスで行きたければ行けばいい。そんな選択肢を尋ねることがちょっとおかしいと思うのですよ。

それは市が確保すべき交通手段なので、この地区はスクールバスでいきましょうっていうのが示されないといけないのではないですか。それを保護者に尋ねるのはおかしいと思うのです。

自転車で行きたいっていう子は遠くても自転車で行かせるのか。それは可能なのですか。この設問自体が必要なのか。この段階で今何か必要な理由があるのか。

委員:

登校は同じ時間に一斉に登校ですけれど、下校時間は低学年が早く、高学年は遅い。時間のずれに対応してもらえるのだろうか。時間がずれると保護者が迎えに行かないといけないとなれば、仕事をされている保護者の方はとても困るので心配をされておられました。

委員:

それに関連して、まず今井先生にお尋ねしたいのですが、電動アシスト自転車での登下校は大丈夫なのですか。

委員:

各校で違うと思う。うちはいいですけど、学校で充電しないように注意しています。

委員:

電動アシスト自転車の取り扱いについては各校で違うとのことでした。

今スクールバスの話が出たのですが、美星地区はスクールバスを運行しています。全国でも稀ですが、スクールバスを運行する時に、一方向にずっと行っていると、いつも早く起きなきゃいけない子がいるということで毎年コースを逆に変えています。

バス停からの乗り降りを変えるときには、陸運局の許可が要ります。陸運局の許可を得るためにはまず公共交通会議でOKをもらってからじゃないと変えられない。美星は昔から理解があって、運行経路を毎年変えています。この子が通学しなくなった、卒業しましたってなると、そこをカットして回るようなこともされていて。

委員:

経路はカットしません。割愛をするときはもう完全に許可制なので、それは陸運局に届けないとできない。

委員:

それを公共交通会議で決定して申請しています。だから、児童生徒の数やルートが変わることがあります。逆回りをやっています。そういう土地柄です。

だから、他の地区でもスクールバスの運行となった場合には、美星という先行事例がありますので、考慮していただけたらと思います。

委員:

低学年は早く終わり、高学年は遅くなる。そういう場合、美星はどうされているのですか。

委員:

帰りは早い便と遅い便がある。昔は行きも2便ありました。2回回らないと全員乗せられないくらい多かったので。今行きは1便です。帰りはそういうわけにいかないから2便にしています。

委員:

問の中身に説明を加えたらどうですか、「どのような通学方法」ではなくて、「これを

こうなった場合公共で対応する」などの表現を加えて。

勝手にしますというような表現じゃないかと。説明書きを入れて、「公共対応にする場合の参考にさせてください」等。詳しく入れれば理解できるのではないかと思います。

委員長:

問10についてはこの質問自体が要るのか要らないのかというご指摘もありましたし、質問にもう少し説明を加えて、「公共で対応する場合に参考にさせていただきたい」というような文言で補うというご意見がございました。

このままでは少し座りがよろしくないかなというところかと思しますので、これも併せて検討いただきたいと思います。基本的には聞く方向で、誤解のないように言葉を補って聞く、ということによろしいでしょうか。(異議なし)

事務局の方でまた検討をお願いしたいと思えます。

委員:

問10についてのご意見の中で、小学生の通学方法は安全面・体力面でスクールバスが想定される中で、「乗車するとしたら何分ぐらいまでが望ましいか」ということを15分刻みくらいで聞いてもらいたいというご要望がありました。

おそらくあまり遠かったら通わせられないというようなことも考えられるのではないかと。それを踏まえて、それを集約するアンケートをとっておけば、実際に考える上で役に立つのではないかと、というふうに思っています。

こういう方法でやりましょうという案を出されて、そのときにとられるかもしれませんが、再編を考える上で、どれくらいの時間までだったら通わせられるのだ、というような保護者のご意向も聞いておくといいのではないかと、という意見がありました。

委員長:

「対応可能な通学所要時間」というところでしょうかね。

委員:

今大体どれぐらいなのでしょう。芳井小学校もスクールバスでずいぶん遠くから来ているので登校で40～50分くらいかかりますよね。小学校1年生が40分だったら、クタクタですね。

委員長:

時間を区切って聞くとしたら、30分・45分・60分ですか。

委員:

通学方法が決まってからでもいいのでは。

委員長:

今ご提案いただいておりますけれども、今回のアンケートからは外すということよろしいでしょうか。(異議なし)

では、質問事項についてご審議いただきましてありがとうございます。

全体を通じてご意見ありますでしょうか。

委員:

保護者の皆さんに答えていただく想定で考えたときに、特別支援学級の子どもの保護者の皆様に説明があるか、それともこれで足りるか。

委員長:

特に気になる項目等はありませんでしょうか。

委員:

特別支援学級の学級数はいくつが望ましいかというのは聞くものではないと思うので、その辺の説明をどこかに入れた方がいいのか、それとももう分かっていただけか。

特別支援学級の保護者さんがこのアンケートを見られて回答できるかどうかですね。

委員:

協力学級として、その学年として回答していただくざるを得ないのかなと思います。

「特別支援学級のお子様については協力学級のことをお答えください」という文言があったら分かりやすい。

委員:

地元の学校運営協議会の中で最終的にまとまった意見として、地域のコンセンサスを得ることが大切なので、時間をかけて地域に説明に向くなりしてほしい。やっぱり

地域の人たちにとって学校という施設はものすごく大切な地域活動の場というのがあるので。

美星は少人数なので、一番危機的に思うのは学校がなくなること、地域の衰退に直結するため、非常に不安を持つ地域です。だから時間をかけてゆっくり検討してほしい。

それから今言ったように少人数学級になって地域の子どもがいなくなるから、地域の人たちが学校に目を向けていないのが実情なのです。だからそれを今のこのあり方検討委員会の中で地域に投げかけて、地域が子どもたちに目を向けるようになることを1つの目標にされたらどうですかという意見がある。

それと、少人数学級が将来的に増えることで子どもを育てる環境が悪くなる、みたいなニュアンスではなくて、統合が最終的な手段であるならば、それまでに出てくる小規模校の課題について、例えば複数校の連携をすとか、地域連携をして、総合学習を深める等色々な方法があるので、そういったことにまず取り組んでほしいというのが美星の学校運営協議会の意見です。

その他にも、義務教育学校にするのはどうかという意見もありました。それも考えてほしいということです。

これは私の意見なのですが、この検討委員会のほとんどが学校運営協議会の委員で構成されています。そこにこれからの小・中学校のあり方の諮問をするというのは、無理があり過ぎるのではないかと思います。委員の方がおっしゃったように、地域の代表ではないですよ。学校運営協議会の代表なので。諮問をするのはいかがなものかという意見もありまして、私もそれに賛成しておきたい。

委員長:

このアンケートを取ってみてどんな意見が出てくるか、それをまた全員で議論する場で、また様々のご意見を伺いたいと思っております。

時間が今日16時までの予定でもありますので、ここでアンケートの検討を終了させていただきます。たくさんのご意見ありがとうございました。

(2) 保護者アンケートのスケジュールについて

それでは続いて、保護者アンケートのスケジュールについて、事務局から説明をお願い

いしたいと思います。

事務局:

その前に先ほどご質問がありましたタイムアウトの時間ですが、委託業者から回答がありました。タイムアウトの時間は約30分ということだそうです。お時間かかってしまい申し訳ありませんでした。

それでは保護者アンケートの今後のスケジュールについてご説明させていただきます。

本日の検討委員会でいただいたご意見を取りまとめ、事務局で修正したのち、委員長と副委員長にご確認をいただいたうえでアンケートを実施させていただきます。

予定では、1月中に修正し、2月にアンケートを配付・実施します。そして3月に集計・分析を行います。アンケートの分析結果につきましては、次回、第3回検討委員会までにお知らせいたします。

今後のスケジュールについての説明は以上です。

委員長:

今の説明に対して質問やご意見ありましたらお願いいたします。(意見なし)

本日はアンケート内容の審議という中で地域の意見と学校運営協議会の意見は違うのではないかというご指摘もございました。

その他審議全体に関しましてご意見ご質問ございましたら、最後にお願ひできればと思いますがいかがでしょうか。(意見なし)

それではこれで審議を終了したいと思います。皆様本当に活発なご意見ありがとうございました。事務局にお返しします。

3 その他

(1) 小中学生向けアンケートについて

事務局(司会):

それではその他に移ります。(1) 小中学生向けアンケートについて、説明いたします。

事務局:

小中学生向けアンケートについてご説明させていただきます。

配付資料の7～8ページをご覧ください。対象は小学校3～6年生、中学校1～3年生としており、Google フォームを活用した Web アンケートとして実施します。

スケジュールにつきましては保護者アンケートと同様に、2月に実施し、3月に集計・分析を行い、第3回検討委員会までに分析結果をお知らせいたします。

質問項目につきましては資料の通りで、小学生6問、中学生8問を予定しておりますのでご承知おきください。

なお、質問項目や選択肢は十分に検討し、精選しておりますが、もし内容についてご意見がありましたら、1月中にいただければと思います。説明は以上です。

(2) 第3回検討委員会について

事務局 (司会) :

それでは(2)第3回検討委員会について、説明いたします。

事務局:

第3回は令和8年5月に開催予定です。

日程は決まり次第、委員の皆様にお知らせさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

4 閉 会

事務局 (司会) :

それでは、4番の閉会に移ります。閉会の挨拶を佐藤副委員長にお願いいたします。

副委員長:

本日は皆様方には、師走のご多忙の中お時間をいただきお越しくださいますて本当にありがとうございました。

私も不勉強でして、一生懸命資料を集めてこの度の検討委員会に臨みました。それを

遥かに勝る、皆様方の学校運営協議会では地域の声を集約していただき、それをこの場で活発に述べていただいたこと、本当に感謝いたします。どうぞ引き続き5月の会議にもお集まりいただき、またより多くの御意見を集約していければと思います。

本日は誠にありがとうございました。

事務局（司会）：

以上をもちまして第2回井原市立小・中学校のあり方検討委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。

16：05 閉会・解散